

1 学校教育目標

○よく考え進んで実行する子 ○なかよく助け合う子 ○心も体もきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学び、自ら考え、学ぶ意欲を育成する学校 ・心と体の健康づくりを進め、豊かな人間関係を育成する学校 ・保護者・地域・教職員が互いに尊重・理解し合い、協働で児童を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、考え、判断し、問題を解決しようとする児童 ・素直で明るく、優しく、進んであいさつができる児童 ・お互いに、心を耕し、体を鍛え、高め合う児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の心が分かり、熱意と使命感のある教師 ・どの子も分かる喜びをもてる授業をつくり、自らも学び続ける教師 ・組織人としての自覚をもち、主体的に学校運営に参画する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校…児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために個別指導に力を入れている。学習直後は定着が図られ、児童の自己肯定感も高まっているが、読解力に課題がある。特色ある教育活動として、落語や俳句、百人一首、将棋等の伝統的文化活動を積極的に進めている。
- 児童…明るく素直な児童が多く、落ち着いて学校生活を送っている。タブレットは学年が上がるほど、使いこなしている。自ら考え、主体的に取り組む姿勢を育てていきたい。
- 教師…日々の教育活動に熱心に取り組み、授業改善を図っている。外国語活動・外国語の校内研究にも熱心に取り組み、授業力向上を目指している。
- 地域・保護者…今年度、学校創立120周年という伝統とともに、日々地域の力に支えられている。家庭との連携をさらに密にし、基本的生活習慣の定着に努めている。また、PTA、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、学習支援ボランティアなど学校への理解が厚く、協力的である。

【成果と課題】

- 学力向上…学力向上プロジェクトを中心に、全校で基礎学力の定着・向上に邁進した。その結果、当初の区学力調査結果の数値が12月の再実施では、国語・算数ともに7月調査の結果より+13.6%になった。さらに2月に実施した本年度（現学年）の区学力調査通過率では、区平均より-2.5%となった。今後の課題は、引き続き基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導を充実させることと、全児童に読解力をつけていくこと。また、地域や地域人材を活用し、体験的活動を一層推進していく中で、児童が主体的に学ぶ学習を目指していくことである。
- 健康な心身の育成…あいさつを重視して、温かな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、思いやりの心をさらに育てたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には、全校で共通理解を図りながら組織的に対応してきた。コロナ禍でもあり、体力向上策になかなか思うように取り組むことができなかったため、今後も計画的に体力向上策に取り組んでいく。
- 家庭・地域との連携…地域の幼稚園・保育園とできる範囲で交流することができた。コロナ禍でもあり、地域や地域人材を活用した学習を進めることが難しかった。今年度は120周年もあるので、全学年で取り組み、地域の中の湊江小学校として活動し、学校愛・地域愛を育てていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	健康な心身の育成	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
全校で基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた授業改善と学力向上に関する取組を計画的に行う。		4月には国語・算数共に80%、12月の再調査では、90%の通過率を目指す。		4月は、国語80.2%、算数78.4%の通過率。12月再調査では国語87.4%、算数87.0%となった。		4月は目標とする80%に算数で1.6%届かず、12月は、国語算数共に90%に2.6%、3%と今一歩届かなかった。個のつまずき解消に引き続き取り組んでいく。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	けやきタイム	国語 ・算数	週1時間	全学年の担任が読解力に特化した指導とつまずき解消に向けた指導を行う。	区学力調査年度末の目標通過率80%以上	年間30回以上実施	1～3年生は30～33回、4～6年生は23～28回実施した。	今年度は時数確保が厳しかったが来年度も継続する。	○
改善	パワーアップタイム	国語 ・算数	火:計算 水:読書 木:漢字 金:作文 朝の会 開始前15分。 音読水曜以外7分	担任が前学年までの漢字、計算ドリル、音読、読書、短作文。に取り組ませ、読み・書き・計算を身に付けさせる。丸付けはその日のうちに担当が行い、当日中に返却する。	長期休業前に漢字・計算のテストを実施する。	1年のみ6月から。2年以上は、4月から各担任が100パーセント実施する。 長期休業前に漢字・計算のテストで全80%以上の正答率	全学級100%実施できた。 長期休業前の漢字テストでは平均80%、計算は83%の正答率となった。	パワーアップタイムの運営研修会を2回実施し、全学級で共通理解し取り組んだ。短時間で内容をまとめる力もついた。来年度は、AIドリルを活用し、個に応じた取り組みをする。	◎

継続	放課後補習教室 (けやき教室)	国語 算数	火・金・ の週2 回設定	<p>【指導者体制】 担任＋専科＋COM 教員</p> <p>【取組のねらい・目的】 学力に課題のある児童の補習を行う。</p> <p>【使用教材】 次へのステップ、ベーシックドリル等</p> <p>【どのように】 SP 表分析や単元テストを基に、つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別指導で学力に課題のある児童の補習を行う。</p>	1 回 30 分×年間 40 回以上	補習開始時と終了後の確認テストで正答率を開始時の70%以上に引き上げる。	1 月末から 4 時間授業になったため、残り 13 回の予定が実施できず、年間 30 回の実施となった。学習後の正答率は開始時から平均 20～50%確実に上がり、成果が見られた。11 月は 3, 4, 5 年生の底上げ月間とし、全教員で 3, 4, 5 年生を集中的に指導した。	事前に保護者に手紙を配布し、確実に実施することができた。算数では、SP 表分析や単元テストの結果を放課後の指導に活用した。成果が確実になるよう、来年度も継続して取り組み、つまずき解消に努めていく。	○
継続	基礎的・基本的な内容の理解の徹底	国語 算数 理科 社会	通年	<p>各教科の学習内容の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダードに沿ったノート指導 ・足立スタンダードに沿った進め方 <p>言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを記入する場を必ず設ける。 <p>主体的・対話的で深い学びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での対話的な学びの時間を確保する。 	区学力調査、年度末の目標通過率 80%以上	区学力調査後に 12 月と 2 月に確認テストを実施。 4 月調査問題は 12 月に通過率 90%、現学年の問題は 2 月に通過率 80%以上にする。	4 月調査の 12 月通過率は、国語 87.4%、算数 87.0%となり、90%には至らなかった。しかし、2 月の現学年の調査結果は、国語 83.5%、算数 81.8%に達した。毎回、分析を行い、指導に生かしてきた。	12 月に行った 4 月に実施した問題の再調査では、2 教科平均 87.2%の通過率となり、プラス 8.2%になった。平均だけでなく、個の伸びを確認し、指導に生かしてきた。また、OJT 研修会を実施し、実績をあげている教員の指導方法を共有した。	○
継続	ICT を活用した授業力の向上	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等を使った授業を行い、児童の意欲を高め、深い学びにつなげる。 ・授業の中で ICT を活用した調べ学習を進める。 ・ICT 担当による校内研修。 	授業観察時にタブレットを活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自己申告時に 1 回以上授業実践。 ・校内研修を年 3 回実施。 	全教員で夏休み延長期間に 7 回×1 時間、土曜授業後に 1 回×1 時間のロングの研修を実施した。授業でも全教員が活用している。	コロナ禍のタブレット配布があり、タブレット活用の能力が一気に向上した。担当が出す ICT 通信も NO18 までになり、日々共有している。	◎

継続	教員の授業力向上	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘しての授業研究（3回）、研修（7回） 足立スタンダードを基本とした授業力の向上 教科指導専門員と管理職による授業観察・ 	授業研究・研修会を10回実施。	<ul style="list-style-type: none"> 指導案作成、授業観察により授業力を評価。 年度末までに教諭層は10回以上、主幹・主任層は2回以上の授業観察。 	授業研究4回・研修会を6回実施。指導案を作成しての授業観察は、主幹・主任層3回、教諭層は、教科指導専門員の指導と管理職の指導を合わせて13～16回実施。	来年度は、中核校として研究のまとめを発表する。引き続き、教諭層の授業力向上に努めていく。	◎
----	----------	-----	----	--	-----------------	---	--	--	---

重点的な取組事項－2		健康な心身の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を認め尊重する態度、あたたかな人間関係を各学級基盤に定着させる。年間を通じた体力向上へ向けての取組を積極的に行う。		<ul style="list-style-type: none"> 年3回のいじめ調査において、対応後、すべて解決する。 日常の体育の時間から計画的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ調査で出てきた課題はすぐに聞き取り、解決した。 体育の時間の他、家庭で取り組むカードも作成し、計画的に取り組んだ。 	コロナ禍で如実に体力低下が結果に表れた。日々の向上策を来年度も発展的に継続する。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 登校時や来校者への挨拶の徹底。 家庭・地域への啓発。 	2回目の保護者アンケート評価では、81%が肯定的評価だった。元気に挨拶できる児童は確実に増えてきている。	毎朝生活委員会の児童と各クラスの輪番児童が、門や昇降口に立った。継続する。	○
いじめの根絶・不登校の解消	いじめの解消 100% 不登校の解消 100%	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化を図る。 スクールカウンセラー・関係機関との連携。 道徳授業、学級活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向の3名に関しては、個々に対応。いじめ防止対策委員会・特別支援校内委員会を毎月1回開き、いじめの解消率を100%にした。 道徳授業は、土曜授業の公開時に分散参観でも見てもらえるように設定した。講座はコロナにより来年度に延期した。 	道徳の授業は公開できた。全校朝会の校長講話で、人権やいじめ防止等の話を6回実施。引き続き、組織で対応していく。	○
体育的活動の充実	体力向上に向け、年間を通して全校で取り組む	体力調査の項目について、体育授業の始め5分に取り入れ、年間を通じて向上を図る。	体力調査の結果をもとに、体育授業の始め5分に取り入れる運動を周知したことや、音読カードに体力向上のための運動を取り入れ、家庭でも取り組むようにした。	年間を通して引き続き体力向上を意識して取り組んでいく。また、コロナ禍で中休みや昼休みの室内遊びが可となっていたが、来年度は外遊びに戻す。	△

重点的な取組事項－3		家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識をもつ。		学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価85%以上	「学校評価アンケート」では、71%が肯定的評価だった。「わからない」が23%あった。	120周年もあり、連携を強化してきたつもりだったが、発信が不足していた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域や地域人材を活用した教材の開発	各学年2回以上実施	1,2年は生活科で公園探検や地域探検、3～6年は社会・総合的な学習の時間での地域人材や外部機関との連携学習を実施する。3年以上は、ICTを効果的に活用する。	各学年地域をテーマに学習に取り組んだ。1年は公園探検、2年は町探検のインタビューを実施。3～6年は外部機関と連携をとりながら地域人材を活用して学習に取り組んだ。	創立120周年とからめ、ICTも活用しながら、地域や地域人材を活用した学習を進めることができた。	◎
幼稚園・保育園との連携	1 幼稚園・1 保育園との連携活動の推進	保育園との交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施。	幼保園教諭が授業参観。全教員が夏休みに保育参観を実施。5歳児は、校庭体育の授業参観と図書室利用体験に来校。学校紹介を1年生がオンラインで実施する予定である。	コロナ禍でもできることに取り組んだ。	○
小中連携	浏江中学校・浏江第一小学校とともに授業研究の交流6回とその他の交流3回を実施。	8分科会に分かれての授業改善と評価についての研究・研修を実施。	授業研究と教員交流は予定通り実施できた。児童・生徒の交流がコロナ禍でできなかった。	来年度も引き続き計画的に連携を図っていく。	○
保護者による年間2回の学校評価の実施	2回の学校評価アンケートの平均回収率70%以上	年2回アンケートを実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善。	回収率は1回目が78%、2回目が80%となった。「家庭や地域の声を学校は受け入れ、改善していますか」の項目において、当てはまる、だいたい当てはまるが71%。	いただいた意見等にお答えし改善してきた。引き続き地域・保護者の声を取り入れ、教育活動を進めていく。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学力向上アクションプランについて

【課題】・4月の区調査において国語では、通過率が79.8%であり一昨年度より4.7ポイント、算数では、78.1%であり一昨年度より2.4ポイント上回った。また、2月に実施した現学年の調査では、国語83.5%算数81.8%の通過率となり、児童は力を付けてきている。しかし、依然として読解力に課題がある。書かれていることや問われていることを根気よく正しく理解できるようになることが必要である。

【対策】・週1時間、読解力・思考力育成のため、「けやきタイム」を全学年導入し、活用力をつける教材を使用して国語・算数の指導をしてきた。今後読み取りの仕方について継続して指導をしていく。算数では、習熟の図れていない単元について指導のし直しも行ってきた。児童も教職員も一つ一つ、やるべきことを丁寧にすることを常に意識して日々努力を重ねてきた。次年度も引き続き取り組んでいく。あいさつの取り組みでは、校舎内や来客等にもできる児童が増えているので、今後も継続して取り組む。体力向上に向けては、コロナ禍で体力低下の実態が明らかになっている。年間を通した向上策を引き続き取り入れ、向上を図っていく。タブレット配布により急速に進んだICTだが、教員研修を充実させ、児童の活用場も広げることができた。来年度はAIドリルを朝のパワーアップの時間に取り入れ、個に応じた課題に取り組みさせることで、一人一人の課題克服を図っていききたい。中核校としての外国語活動・外国語の研修も定期的実施し、教員は授業力を身に付けた。児童の外国語を使いたいという意欲も向上し、高学年では、smalltalkも充実してきた。来年度は、成果を発表する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

創立120周年記念後援会の皆様のお力で、全校児童、地域の皆様、お世話になっている方々、PTAや教職員全員で創立120周年の式典と児童アトラクションを盛大に実施することができましたこと、心より御礼申し上げます。

コロナ禍の中、教員は日々授業改善しながら毎日の授業に取り組んでいます。また外国語活動・外国語の研究にも取り組み、児童の「外国語を使いたい」という意欲が向上してきています。放課後補充教室である「放課後けやき教室」では子供たちと個別に向き合い、基礎・基本の定着に努力しております。4月の学力調査は前々年度より+4.7%の結果が出ました。日々の地道な取り組みの成果が出て、12月の再調査では約87.2%の児童が前年度までの学習内容をクリアしました。また、開かれた学校づくり協議会の皆様のご協力の下、理科園芸委員の児童と共に花いっぱい活動に取り組み、奨励賞を足立区からいただきました。コロナ禍ではありますが、生活科や総合的な学習の時間に、地域に出かけたり地域の皆様のご協力を得たりと、活動の範囲を広げることができ、学習発表会ではこれまでに学んできたことを映像という形になりましたが発表することができました。今後も「地域の中の渚江小学校」として活動させていただきます。「笑顔あふれる渚江小」を常に目標に掲げ、進化し続けたいと考えています。

(3) その他（学校教育活動全般について）

足立区教育委員会指導力向上中核校（外国語活動・外国語）として、研究をすすめて2年目を終えた。指導が変われば授業が変わり、児童も成長を続けている。3年目となる来年度は、今までの成果を発表し、校外に広めていききたいと考えている。

制約のある生活の中でも、高学年がお手本を示し、下学年をリードしてきた。120周年という大きな節目や学習発表会という大きな行事に向け、一人一人の力を結集させ、これまでの成果を発表できたことは児童にとって大きな自信となり成長につながった。4月の学力調査から12月の再調査では、約9割の児童が目標を達成した。生活面では、相手の気持ちにたてず友達を傷つけてしまうことや言葉の使い方が乱暴になる場面も見られた。今後も組織的に対応と指導を行い、あたたかな人間関係を育てていく。本校の伝統である、「落語・俳句・将棋・百人一首」にも多くの方が関わってくださるおかげで、児童も活躍の場を広げている。開催最後となった炎天寺の一茶まつりでは、2年連続の団体賞受賞や特選1、秀逸4、入選7の結果となり、誇れるものである。今後も、保護者・地域の皆様との連携を密にし、協力をいただきながら、学校・保護者・地域が一つになって「笑顔あふれる渚江小」にしていく。そのために、日々生じる課題に迅速に対応しながら、持続可能な活動を模索していきたい。